

夢の国のお話

岡本 悠

わたる、は、思った、こいつは、ただ者ではない

夢乃は、とにかく、快活に喋る女性だった

心臓に病気を抱えているというようなことを聞いたが

ほんとうかはわからなかった

だからこそ、人を愛した

特に、男性に対しては、愛があった

女性に対しては、嫉妬があった

思ったことは、基本、言葉でも、態度でも、現した

怖い物なしである

夢乃は、ミュージシャンとして活動していた

若葉と2人で、同居していたらしい

俺が、若葉に「妹のような存在？」

と聴くと

若葉は「う～ん、まあね」と答えた

俺と似ているところは、

勝負事にめっぽう弱いことだった

客との酒を懸けたジャンケンも負けるし

ポーカーをやっても負ける

ただ、俺も弱いから

夢乃には、負けることもあった

俺が、最後のバーの日

統合失調症を伝えた時には

そういう変な病気が...という言い方をしたが

それは、自然とも言わないけど

若葉も、心の中はわからないけど、注意しなかったし

若葉も、俺ならわかるだろう、と感じた

いたって、普通を演じてしまうこともあった

俺が、WBC に話題をふった時、

即座に「ペッパーミルパフォーマンス」をした

これでは...

1人の客が質問を聴かないで話を変えてしまったのが続くと、

別の客のところへ行ってしまった

ただ、夢乃のいいところは、そういう、まっすぐさだ

嘘がない

恐らく、夢乃は洋子に嫉妬していたのだろう

だから、俺が洋子に話そうとした時

奪い取った

そういうカラクリの子だ

俺が、ネネと同じ名前の、叔母の犬の話をした時

叔母の名前と勘違いした

俺が、慌てて、叔母の犬の名前だよ、勘違いだよ

と言うと、

じゃあ、叔母の名前を言って

と、言われた

俺は答えた

アングルが、そもそも違うのだ

だから、敵も多いし、嫌われるが

ほんとうは、そうではない

帰りの見送りでは、

心から手を振ってくれたのは

夢乃だけだ

それは、人間を愛しているからだ

神は、嘘のない人間を愛する

誤解される人間とは、嘘がない

わたる、は、それを神から聴いて、夢乃だけに会いたくなった

でも、夢乃以外の人間とも合わなくてはいけない、それが嫌だった

だから、行かない

夢乃のカラクリは、もう1つある

誰からも、心から、愛されることがない、という魔法だ

「完」